令和６年度学校評価における就職指導部

2025年1月22日
木更津総合高等学校
就職指導部　寺岡 和貴

点検・評価項目	分掌内評価 3 優れている 2 適切 1 改善が必要	点検・評価項目の総括	今年度の傾向、特記事項
各事業(人事部)と木更津公共職業安定所との連携等	3	**・求人状況：**社会情勢としてコロナ禍の影響がほぼ過ぎ去り、求人数は昨年度に引き続き増加傾向にある。生徒一人につき約4.6件の求人がある。本校には2,000枚以上の求人票が届けられている。特定の業種・職種（特に現場作業）では職場見学を希望する生徒が少ないという状況が発生している。 **・オンライン求人票：**2022年度より導入した「HANDY進路指導室」の活用により学校での求人票検索だけでなく、生徒が自宅で家族と検討できるよう配慮してある。今年度からバーコード求人票登録機能が導入され、より業務効率化になった。 **・夏期講習：**7月29、30、31、8月1日に実施した夏期講習では、一般常識・SPI、作文、面接、PCスキル等、採用試験で内定につながる効果の期待できる分野に焦点を絞り実施した。 **・面接指導：**採用試験において面接は必須であり、6月の模擬面接、7，8月の夏期講習、9月の面接練習において面接指導を多数実施した。1人最低3人の教員に指導してもらうよう指示をして実施した。	**・求職状況：**経済的・学力的に進学しやすくなり、またコロナ禍だった頃の影響もあり就職希望者はコロナ前と比べて減少している。今年度は就職内定者120名(男子66名、女子54名)、公務員合格者9名である。全国的にみて生徒は現業職や夜勤などを避ける傾向があり、企業の対策として可能な限り生徒の希望を叶えようとする努力が顕著に伺えた。例年以上に欠席日数の多い生徒が目立った。欠席の理由を明確にして就職した後に安易に休まない指導を重視した。 **・オンライン求人票：**掲載した求人票の数はHANDY進路指導室に1,549件である。家族でオンライン求人票を閲覧し、就職指導室に相談に来る生徒も目立った。上記HANDYは今年度からバーコード読み取りを採用しより容易に求人票がアップロードできるようになった。 **・夏期講習：**93名の生徒(一般企業82名、公務員11名)が参加し、今年度は欠席者があまり目立つことなく4日間熱心に受講した。就職指導部教員11名が講師を担当し、専門分野を中心に指導してくれた。 **・面接指導：**6月に実施した模擬面接は87名が参加した。就職指導部の教員の協力もあり本番を想定した緊張した雰囲気作りがしっかりとでき充実した面接指導になった。夏期講習での集団面接練習を経て、9月からは採用試験に向けて就職指導部教員総動員で個人面接練習に取り組んだ。
公務員指導	3	一次試験である学力試験は9月に実施された。国家が9月1日、地方が9月22日、県や県庁所在地の試験は9月29日に実施され、学力試験で不合格となる生徒が例年以上に目立った。そのため9月までは学力試験通過のための対策が主な指導となった。生徒は放課後講座や夏期講習、清和大学での講座などに参加することで実力を高めた。	公務員合格者は９名である。うち国家公務員２名(東京出入国在留管理局１名、厚生労働省千葉労働局１名)、消防職3名、警察官２名、自衛官希望３名である。放課後公務員講座参加者は6名、夏期講習参加者は16名、清和大学での講座(7月22、8月18日実施)への参加者は部活動の試合の関係で5名に留まった。公務員希望者の学力は昨年度よりも低い印象があるが、7月からの追い上げで成績の上昇が目立ち一次試験を突破した生徒も目立った。多くは放課後講座、夏期講習、清和大学での講座などで１つ１つ地道に弱点を克服し合格した。9月より模擬試験の機会を増やし、本番での雰囲気に慣れ2時間近くの集中力を維持できるよう調整し合格につながった。 また、清和大学実施の夏期講習などに生徒が積極的に参加した結果、惜しくも不合格になった生徒の多くは清和大学にて公務員上級職を目標として進学した。
インターンシップ	3	4月から6月まで実施し、主な実習先は日本製鉄やJFEでの製造職やイオンモールやアウトレットでの販売職、建築業、ゴルフ場・ホテルなどのサービス業、イベント業、美容業、保育園、警察、消防、自衛隊、木更津市役所などである。 文化祭ではメインステージ設営のインターンシップも実施した。	今年度は依頼した団体数67、そのうち実施した47、参加生徒は151名(前年度130名)であった。自分の進路を考慮し、就職希望生徒だけでなく進学希望生徒も積極的に参加した。特に木更津市役所では生徒の希望する課をそれぞれ体験させてもらった。また10月の文化祭ではシミズオクトのメインステージ組み立ての体験に10名が参加させてもらった。前年度の反省を生かし、事前準備を徹底したため、今年度は比較的良い評価が目立った。
受付実践	3	平日２，３校時に実施。来客対応、お茶出しや郵便物を各教員への配布などの業務を通じてビジネスマナーや敬語を学ぶ。生徒は１日つき１人のみ実践し、指導教員との濃密な時間を通じていずれは就職するための心構えと素養を身につける。	今年度は第３学年女子12名が実践に参加。9月2日より開始し、一人ひとりが緊張の中、慣れない手付きでお茶出しや来客対応、郵便物の配布を実践中である。来校者は皆、このような実践は非常に珍しく、生徒が緊張する中で真剣に取り組む姿を微笑ましく見守り高い評価をしてくれている。
その他	3	・原則として生徒は希望した企業の試験を受けられるが、現実問題として生徒の適性や能力を考慮した場合、内定が困難な場合もある。引き続き理想と現実のギャップを埋める指導の努力が必要である。 ・今年度の大きな課題は2つあり、1つは生徒の学力(特に数学)が低下しており、それをどのように克服するかであり、もう1つは欠席日数の多い生徒が目立ったため、出席の大切さを再確認することであった。	・生徒本人、担任、保護者との連携を昨年度以上に重視して指導を試みた。その結果、昨年度よりもミスマッチな選択は減った。 ・生徒の希望する現業職を教員が薦めても、最終的に生徒の家族や知人が自分の会社を薦め、そこに入社してしまう生徒が目立った。折り合いをどうつけるか、来年度の課題としたい。 採用試験に関して、学力(特に数学)で不採用になる生徒が昨年度より目立ったため、今後は他分掌と協力して生徒が学習の基礎の段階から再確認でき、理解のできる学習環境を構築したい。 ・在学中に安易に欠席する生徒が増えているため、今後は出席の大切さを意識できる指導を心がけるつもりである。